

2017年12月26日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【引き続き、やり難い相場】

今日は12月26日なので、昨日でクリスマスが終わりました。

今年も、あとわずかで終了です。

年内の重要イベントは、ほとんど終了しているので、驚くような大きなニュースが無ければ、今年のマーケットも終わりを迎えるばかり、といった状況です。

振り返ってみて、今年もマーケット(外国為替相場)は、非常にやり難い相場だった、と考えています。

例えば、ドル/円を見ると、今年の高値は、年初(2017年1月)に付けた118円台であり、安値は9月に付けた107円台でした。

その値幅は、わずか11円であり、その11円の範囲内で、上下動を繰り返しただけに過ぎない相場だった、と言えます。

特に、今年(2017年)の3月以降のドル/円は、高値114円台、安値107円台のさらに狭いレンジ内で、上下動を繰り返しています。

値幅が狭ければ、それだけ狙える利益も少なくなるのは当然で、つまり、今年は利益を上げにくい相場だった、ということです。

現在(12月26日東京時間午後)のドル/円の水準を見ても、当然のことながら、上記の範囲内での小動きに推移している訳です。

来年(2018年)の相場が、

「引き続き、やり難い相場になるのか？」

「それとも、やり易い相場になるのか？」

を考えてみても、今のところ、気分の良い答えは、導けそうにありません。

正直なところ、

「当面のところ、引き続き、やり難い相場になるのだろう」

と考えています。

マーケット（相場）が活況になるには、ある程度のボラティリティ（変動性）が必要なのですが、上述の「高値 114 円台、安値 107 円台のさらに狭いレンジ」をまずはブレイクしないと、ボラティリティは上がらないだろう、と考えるからです。

現在（12 月 26 日東京時間午後）のドル／円の水準は、高値 114 円台に近い水準ですが、仮に、114 円台ミドルの高値を更新して、115 円台に乗せるとしても、劇的にボラティリティが高まる結果にはならないだろう、と考えています。

そう考えると、来年（2018 年）の年初の相場も、難しそうだ、という結論になります。

あえて、「来年（2018 年）の年初の相場」としたのは、「来年（2018 年）の 1 年間の相場」が活況になることに期待を込めて、そのように表現しています。

+++++

（2017 年 12 月 26 日東京時間 13 : 00 記述）